

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1279 2024/03/21 (Thu)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)



花さき山に咲く花をもっと多く大きく！

麓の人間が優しいことをすると咲く……

斎藤隆介と滝平二郎 (切り絵) 絶妙のコンビが放つファンタジー

山菜採りに山に出かけた《あや》は、道に迷ってしまう。ふと広場に出たらそこは見たこともない鮮やかな花が一面に咲いていました。あまりの美しさに呆然としている《あや》に

山姥 (やまんば) が声をかけます。

「ここに咲いている花は、ふもとの人間が優しいことをすると咲く花だ。」「《あや》、おまえの足下に咲いている赤い花は、昨日おまえが咲かせた花だ。」

祭りが近づいた昨日、妹の《そよ》が、母さんに、「みんなと同じ赤い着物がほしい」と泣いておっかあを困らせたとき、おまえは言った。「おらは、いらねえから《そよ》さ買ってやれ」と。そう言ったとき、その花が咲いた。おっかあは、どんなに安堵したか、《そよ》は、どんなによろこんだか。

「おまえは、家が貧乏で二人に着物を買う余力など無いことを知って、そう言った」「その健気さと優しさが、花となって咲いたのだ。今そこに露を乗せて咲こうとしている小さい青い花。それは、双子の兄が、おっかあの乳を独り占めしている弟をみて、ほんの少し先に生まれたただけなのに、「自分は兄ちゃんだからと、目に一杯涙をためて、辛抱している。その涙が、そのつゆだ。」

命をかけると山が生まれる

「花ばかりではない、八郎瀉の津波を防ぐために身をもって人々を守った八郎。その行為で、あの山が生まれた。あっちの山は、サンコって言う大男が、山火事になったおいだら山に覆い被さって、村や林が燃えるのを防いで焼け死んだときにできたのだ。」「優しいことをすれば、花が咲く。命をかけてすれば、山が生まれる。嘘ではない。本当のことだ。……」

《あや》は、家に帰っておとうやおっかあに、そのことを伝えたが、「夢でも見たんだべ」ととりあってはもらえなかった。そして再び、山に登って花畑を探してみたが、どこにも見つからなかった。

「あっ！いま、花さき山で、おらの花が咲いてるな」

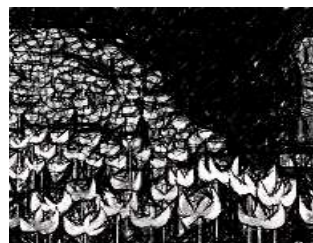
けれども《あや》は、そのあと時々、「あっ！今、花さき山でおらの花がさいてるな」と思うことがあった。

1969年12月30日に1刷で発行されてから、手元にある「花咲き山」の絵本は、1999年7月の116刷であり、現在ではおそらく180刷程度になっていると思われます。もはや、古典的名著と言っても良い、心震える物語。最近の「お笑い」が2回目見ると「もう、見た(ので面白くない)」のに対して、「落語」や、名画や名著は、繰り返し、もう分かっているお話を(知っていながら)もう一度観たい・聞きたい、読みたいのは何故だろう。

おそらく、人間の心に共鳴を呼び起こす「映像」「はなし」「物語」は、何度も何度も繰り返し飽きない。それに対して、無理矢理笑わそうとするものは、2回目以降は賞味期限切れの反応になる。

山田洋次が、「映画は『見せ物』じゃない」と言うときの『見せ物映画』とは、首が飛び、血しぶきが画面に拡がるような映画このことであつた。『何が面白いのだろう』と。

「今だけ、金だけ、自分だけ」が、大手を振って居る現代。私たちひとり一人が、咲く花をひとつひとつ増やすこと。大きく育てること。それが時代を切り開きます。(村井 義幸)



☆文庫☆ は、今週お休みします。